

「日本縦断走り旅」

長尾康久

私にとっては、オリエンテーリングの様な地図読みのゲームでした。皆それぞれ思いは色々あったと思う。街道地図に出来る限りこだわった人。地図とは違う街道を見つけ様とする人。とりあえずひたすら走りたい人。GP(グッドポイント)を出来るだけ見て回ろうとする人。あえてコースアウトしても、自分のコースを行く人。自分の足でとにかく日本縦断が出来ればいい人。旧街道より間違えにくい国道等を走る人。小判鮫の様にひたすら人について行く人。皆それぞれ思いは様々だったと思う。

私は森塚さんが作成してくれた地図に、出来る限りこだわって行こうと思いました。しかし、地図読みは甘くはありませんでした。全行程中100%地図通り走行出来た日は、恐らく一日たりとてなかったと思う。でも間違えるのがまた楽しい。それがくせになってしまい、何回もコースアウトしてしまう日もあり、困ったものだ。大きくコースアウトしてしまうと、戻るのが大変でした。

ともあれ、二ヶ月間仕事も忘れよく遊んだものです。この走り旅で私が一番感じたのは、60日間健康であり続ける事の難しさだった。昨年(平成24年)の4月頃

から、踵骨棘を患い、翌一月頃それが完治しない
まま変形性膝関節症が発症。色々な医者にかか
たが完治せず、八ヶ月があつというまに過ぎ、思う
ような練習も出来ないまま、本番となつてしまいました。

まあ、今ままでも通り、ロキソニンを友として行こうと決め
ていました。スタートして、その日の距離、コース、そして
膝の調子を伺いながら、極力ロキソニンを飲むのを
控えた。でも、やはり2日に一度はお世話になりました。

膝痛は元々想定内でしたが、突然想定外の痛みにお
おわれました。頭痛です。走る時の着地の衝撃
が頭に響き、まるで頭蓋骨の中の脳が揺さ振ら
れる様な痛みでした。バップリンやロキソニンを飲
んでも全く効きませんでした。ただ、頭を振ったり、
衝撃を与えなければなんともない。33日目の袋井
宿の午前6キロくらいからホテルまで歩いて行った。

翌日も頭痛は治らない。赤坂宿の大橋屋まで54
キロを全く走れず、頭に響かないよう歩きました。

不思議な事に、頭が痛いと言つても膝の痛みを忘れる。人間の
体、ておもしろい。しかし夜、皆に痛院へ行く様、勧め
られる。心配してくれる気持は解るのだけれど、や
はり、続けたい。

次の日もやはり頭痛はひかなかった。この日は金谷

迄57キロだったが、昨日の様に走ると歩けば、11時間あれば着けると思っ、てスタート。GPの法蔵寺で森塚さんが心配して待、ていてくれたが、歩いて行くと告げて、続行。しかししばらく歩くと頭痛と吐き気が同時にきた。吐き気は治るだろうが、頭痛はすでに3日目。これ以上続けるとは皆に迷惑をかけるしま、うかもしれない。遂にリタイアを決めて、森塚さんに電話し、三合駅から京都へ帰った。タイツ姿のままだったので一度家へ帰り、自転車で京都では有名な脳外科のシミズ病院へ行く。

病院に着いても、まだ午前10時50分、午前の診察に間に合った。レントゲン、MRI他院長に色々診察してもらったが、結果は多少の老化は見られるが、大きな異常は見当たらないと言う。だったらこの痛みは何なんだと思、ったが、仕方がない。そして激痛の時しか飲まない様に言われた特效薬を一週間分、いや、まだ先は長い。三週間分せがみ、家に戻った。安静にしていれば元来痛みはないので、久しぶりの自宅で様子を見る事にした。しかし、住み慣れた家だというのに何故か落ち着かない。明日は4時30分に起床しなくていいのにほとんど眠れなかった。

翌日、頭はまだ痛い。明らかに快方に向、ている。

そして今頃 皆が走っている事を思うと、いても立ってもいられない。ホテルへ連絡して宿を確保。森塚さんに復活の電話を入れ 四日市へ向った。

その夜、ミーティングで心配かけた事を詫言ひた。皆快く迎えてくれた。戻って来てよかった。実は、頭痛はまだ少し残っていたが、特效薬があるので何とかかなると思っていた。案の定特效薬は一度も飲まずに終った。しかし後半、膝痛の為ロキソニンには何度もお世話になりました。

佐多岬からの帰りのバスや飛行機で、走れなかった三合駅から四日市間を何時行こうかと考えていた。早い方がいい。膝が治ってからだといつになるかわからない。約100キロあるので2日で行こうと思ったが、連休で宿がとれず、一気に行く事にした。結局、11月22日 仕事終りに京都を出発。夜22時に三合駅をスタート。ロキソニンを忘れ、ほとんどが歩きになってしまったが、翌23日20時過ぎに四日市に到着。これでやっと日本縦断が繋がり、私の走り旅も一応終わりました。

共に寝起きし、共に走っていただいた走友の皆様、コース中心援まるエイドを出してくださった皆様、また影ながら御支援御協力していただいた皆々様に、心より感謝致します。皆様の御蔭でこの大会が成り立ち、成功したのだと思います。本当にありがとうございました。

最後に森塚御夫妻には、大会の企画から運営まで様々な御苦勞お疲れ様でした。個人的にも御心配をおかけして、申しわけありません。またこの様な大会を企画されるかどうかは判りませんが、今度はもう走れないと思うので、スタッフで手伝わせていただきたいと思います。

バンザイ!

日本縦断走り旅